

8月5日～ 八ヶ岳（難コース）

平尾 繁和

山名	八ヶ岳（難縦走コース）	山行名	例会 夏山集中登山
ルート	美濃戸口～行者小屋～阿弥陀岳分岐～赤岳～文三郎道～赤岳鉱泉～美濃戸口		
山行日	2022年8月5日（金）～7日（日）	天候	①晴れのち雨、②雨のち曇り、③晴れ
参加者	CL：平尾、SL：伊藤多、今村、蒲田、高橋、玉井、徳田、永井、林		

ルート概略図 	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
	美濃戸口	着	11：40	赤岳	着	8：36
		発	12：10		発	8：50
	赤岳山荘（美濃戸）	着	13：07	赤岳頂上山荘	着	8：55
		発	13：17		発	9：40
	行者小屋	着	16：38	キレット分岐	着	10：23
		発	5：10		発	10：30
	阿弥陀岳分岐	着	6：25	行者小屋	着	12：05
		発	6：40		発	12：45
	中岳	着	6：57	赤岳鉱泉	着	13：20
		発	7：00		発	8：00
文三郎分岐	着	7：38	美濃戸山荘	着	10：14	
	発	7：38		発	10：40	
キレット分岐	着	8：00	美濃戸口	着	11：30	
	発	8：05		発	12：15	

1日目：美濃戸口を予定より10分ほど遅れて出発、美濃戸へ少し早いペースですすむ。美濃戸を過ぎ赤岳鉱泉方面と別れ南沢に行く。溪流に沿いシラビソの森の中に行く。途中で雨が降り出し雨具を付ける。森を抜け白河原に出ると正面に横岳が見えた。行者小屋までは標高差で約850m。愛宕山ほどとの思いがみなの中にあっただが、予想外に時間がかかり予定より約30分遅れて到着。（藤村さんの携帯には小屋から連絡が入ったことが後でわかる）小屋では電波が上手くつながらず報告ができず困った。ネットも見られずTVもなしで明日の天気の情報を得られなかった。唯一小屋の人の話では明日は1日雨とのこと。雨だと赤岳から先の横岳通過が危険でとりやめることが事前打合での確認。対策を検討し、朝早立しとにかく赤岳まで行く。そこで様子も見て、先にすすめない場合は、小屋と連絡をとり可能な小屋に泊まることとした。2日目：朝食を弁当に替えてもらい5時に雨具を着て準備、雨が降ってきた。文三郎道との分岐を右へ、阿弥陀岳へ向かう。樹林帯を抜けた先で1ヶ所ロープがある急な崖をよじ登った。ロープが上の方でバラケかけていた。イブキジャコウソウの群落が現れ、しばらく行くと分岐についた。朝食をとるうちに雨がひどくなり阿弥陀岳の上部は見え、展望も望めず、下山路が急傾斜で危険なのでパスし赤岳をめざした。中岳のピークには冬山での遭難慰霊碑があった。岩場を下ると、コマクサに出会った。登り返して文三郎道との分岐にでる。青年3人が軽装できていた。「阿弥陀岳からの道は危ない」と聞いたので文三郎道を来たという。阿弥陀岳を往復し、赤岳から硫黄岳へ行き美濃戸まで戻るといふ。時々ガスがあがり中岳が見え、その後ろにわずかに阿弥陀岳の頭がのぞいた。キレット分岐から、ストックをしまいヘルメットを着用し赤岳への登りにかかる。初めての岩登りの人もいたがなんとか無事山頂へ。午後の天気も不確実、膝の調子がよくないと申告もあり安全第一に考え、小屋が取れたので引返すことにした。下りは長い階段が続く文三郎道をゆっくり慎重に下る。ところどころ乗ると木が動く階段があった。行者小屋のテラスで昼食をとり、赤岳鉱泉に向かった。3日目：8時に赤岳鉱泉を出発。花や虫を見ながらゆっくり北沢を下る。美濃戸で休憩、最後の坂道をひと登り、11：30分美濃戸口に到着。予定変更で難縦走コースが（柔）軟縦走コースになったが、みなさんの協力で無事楽しい山行ができた。いつか機会を見て再チャレンジをしてください。

ヒヤリハット 特になし



赤岳山頂



中岳を下る



赤岳キレット分岐から 赤岳めざし



シロバナヘビイチゴ



イブキジャコウソウ



コマクサ



北沢



赤岳鉱泉前で

2022年夏山集中登山 八ヶ岳難縦走コース 感想

林 尚子

赤岳へ向かう途中でほぼ横に倒れたような格好で枝や幹を伸ばす木々の姿を見て不思議がっていると、雪の重みでこのようになるんでしょうね、と教えてくださいました。こんなに厳しい環境に生

きる木々や草花は抗うというよりも身を委ねているように見えました。そこから先へ進みガスが切れて目の前に立ちはだかった赤岳の姿はうっすらと赤い岩肌が見えただけでもゾッとするほど恐ろしく、身震いしそうでした。それでもY懸で学んだことを思い出して落ち着いて岩を登り降りすることができたので、事前の準備の大切さを実感しました。翌朝に山小屋から見上げた赤岳は高く堂々としており、そして遠い存在で、昨日登ったことが信じられませんでした。到底一人では辿り着くことができず、山友会に入っていなければ八ヶ岳へ足を運ぶ勇気さえなかったと思います。道すがら山小屋でいろんな情報を聞いてくださったり、天気から様々な変更案を考えてくださった平尾さんと伊藤さん。安全を最優先として皆で無事下山でき共に過ごせた時間は初八ヶ岳の何よりの思い出となりました。本当に感謝いたします。毎回お世話になりっぱなしですが、今回も皆さん本当にありがとうございました。

永井 繁一

昨年硫黄岳に登り、そこから赤岳へ続く稜線を眺めた。天を突くような赤岳の山姿を眺め、必ず赤岳にとの思いを強くしていた。今回実現でき赤岳山頂に立てたことに満足している。好天であれば富士山を含めた展望があったと思うが、天気が今ひとつで残念だった。ただ赤岳手前の岩場から振り返ると、ガスの中から時折姿を見せる中岳と背後にその一部を薄っすら表す阿弥陀岳に感激した。ガレ場では雫をまとったコマクサの花がすごくきれいで写真を撮ったが、スマホのカメラでは再現されず残念だった。天気の回復が望めず赤岳から硫黄岳への縦走を断念せざるを得なくなったが、小屋の変更や予算の見直しなどCL・SLさんが適切に対処頂き、安全に下山できた事に感謝致します。結果、2泊目は豪華な夕食を頂きました。

徳田 幸子

近年アルプスの山に登ってなく、高山植物に会いたくて参加しました。行者小屋から赤岳に登り、頂上近くでコマクサに出会えて嬉しく思いました。赤岳山頂で硫黄岳に行くか下山するかを検討するが、天候が悪くなった場合を考えて下山、赤岳鉱泉に泊まることになった。硫黄岳山荘まで尾根歩きなら、コマクサ、チングルマ、他の花も、もっと咲いていると思うと少し残念でした。赤岳鉱泉も一度泊まりたいと思っていたのでお風呂もあり快適な小屋でした。

玉井美智子

心配していた天気もザーザー降りにはならず赤岳に登れたことは本当に良かったです。360度の雄大な景色は見れませんでした。中岳～赤岳で最高に美しい女王（コマクサ）に感動。赤岳鉱泉では外を散策したり、おしゃべりをしたり、ゆっくりと時間を過ごせて夏の八ヶ岳を満喫しました。行けずにいた八ヶ岳、今回参加出来て良い思い出になりました。バスもゆったりでした。リーダー、サブリーダー、皆様ありがとうございました。

蒲田 史

1日目、途中から雨の中、行者小屋へ。苔が地面、岩、樹々にまでむす中、進みます。サルオガセが樹を覆っているのも見られました。神秘的です。2日目、雨が降ったり止んだりの中赤岳山頂へ。途中霧が晴れて山頂が見えます。期待しながら岩を登りますが、山頂は霧で眺望なし。残念です。でも登頂できたことは確かなこと。この日は予定変更で赤岳鉱泉へ下りました。3日目、赤岳鉱泉から美濃戸口まで。高山植物を写真に撮り、名前をメモしながら、ゆったりと贅沢な時間を過ごしました。お天気はままならないもの、的確に判断していくことが大切と教えていただきました。今回、気象情報が入らない中、柔軟に判断していただいて、無事下山できました。CL、SL、ご一緒していただいた皆様、お世話になりました。楽しい3日間ありがとうございました。

今村ひとみ

山梨の甲府盆地で育った私にとって、八ヶ岳とは方位を知るためのコンパス代わりとなる山で、いつも八ヶ岳を探す癖がついていました。赤茶色の八ヶ岳が白く雪化粧を始めると冬の訪れを感じ、八ヶ岳を通り越して来る冷たい北風が吹くと、甲府は本格的な冬を迎えます。その八ヶ岳に登るなんて考えてもみませんでした。ですが山友会に入り、夏山登山がまさかの八ヶ岳。これは地元代表として赤岳山頂に立ってみなければ！と思い参加を決意し、登頂することができました。8月5日の八ヶ岳は雨予報でしたが、登山口を出発する時は晴れていて気持ち良くスタートできました。途中雨具を着ましたが本降りにはならず、景色を楽しみながら歩きました。1泊目の行者小屋は老舗の山小屋。チーズインハンバーグがメインの夕食を美味しく頂き、そして翌日の天気が雨予報と出ているので、皆でコースの変更を考えてから就寝しました。2日目は朝5時のスタート。メンバーの体調や天候に合わせ、無理なく歩けるようにCL、SLさんがコースを判断してくれました。曇り空でしたが稜線が美しい中岳を通過した際、雲の切れ目から見えた景色に感激しました。そしてメインの八ヶ岳最高峰赤岳は想定していた通りの岩山で、岩をよじ登る楽しさを感じました。下りは後ろ向きで降りた方が安全とのことでしたが、私は少し怖さを感じながら降りました。その際に今まで都合が合わずY懸トレーニングに参加してなかった事を反省したので、次回は必ずY懸に参加できるようにします。宿泊はコースの変更に伴い、硫黄岳山荘から憧れの山小屋赤岳鉱泉に変更となりました。赤岳鉱泉にはパウダーコーナー付きの女性専用更衣室があり、私はその部屋の木の香りに誘われて何度も行きました。また掛け流しの温泉は熱々で気持ち良く、夕食は名物ステーキにビールで乾杯して最高でした。3日目は朝から晴れ、小屋の外に出ると赤岳から太陽が昇るのが見えました。昨日赤岳の山頂にいたことをより鮮明に感じました。そしてゴールとなる美濃戸口登山口までの7kmは、北沢に沿って花やいちご、苔など高山ならではの植物に触れ合いながら楽しく歩きました。今回も山友会の先輩方から多くの事を学び、山を登る楽しさを改めて感じました。企画から関わってくださった皆様、お留守番で見守ってくれていた皆様、全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

伊藤多恵子

「八ヶ岳」の名前を聞くと、懐かしい気持ちになる。’98年に友人たちに連れられて白山に登ったのがきっかけで登山の魅力に目覚め、翌’99年、初めて自分で山行を計画した。それも、ドのつく素人3人女で。一人は山に登ったこともなかった。それなのにガイドブックの「森と湖の静かな山旅」というキャッチフレーズに惹かれ、蓼科山から北八ヶ岳縦走へ。行ってみて私の立てた計画が無謀だと判明。最初の小屋に日が暮れてから到着。あやうく遭難するところであった。小屋の主人も宿泊客もみんな親切に手取り足取り教えてくれて大幅にコースと行き先を変更。15のピークを踏むはずが、たった5つに。でも、楽しい思い出。二度目は、2004年10月一人で。美濃戸口～硫黄岳山荘（泊）～横岳～赤岳～阿弥陀岳～美濃戸口というコース。怖かったのは、未明の強風。風にあおられて一度は転倒。が、それ以外は案外スルッと通り抜けたような記憶が。北と南、これで八ヶ岳も満足と思っていたら、20年振りにもう一度機会が。懐かしさがこみ上げてきて、行きたい！と。二年越しで思いが叶った。6月末に膝を痛めて、不安いっぱい参加であったが、楽しいメンバーと一緒に歩いて、何とか乗り越えられた。苔むした森は北八つの趣。赤岳の上りからは、一変して岩山と化す。雨の予報の中、苦労して何度もコースの変更を検討してくれたCL、Hさんのおかげで無事に赤岳に登れ、その後も安全で納得のいく旅となった。準備に準備を重ねて多くの会員が参加できるように3コースを設定してくれた総リーダーのFさん、ありがとうございました。